

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
1	地域福祉の向上 誰もが暮らしやすい社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉に関わる全ての部署の横の繋がりを構築し、情報共有のうえ多方面から支援する。そのためにも、ワンストップ窓口の開設も必要</li> <li>生活困窮者支援、子育て支援において、福祉関係部署、教育部署が情報共有し、支援対象者の把握漏れがないよう努める。</li> </ul>	<p>まず、相談先がわからない人が多いうえに、福祉関係部署相互また福祉・教育間はまだまだタテワリ行政が改まっていないと思われる。</p> <p>また、多くの情報を持つ市民は多くの支援を享受でき、情報のない社会との繋がりがない市民は支援が届かない。</p> <p>そこを、横のつながりを持つことで解消し、細やかな必要な支援を届ける。</p> <p>生活困窮者・子育て支援に関して充実し、切れ目のない支援をすることで、「生活の安定・社会との繋がり・就労」（→ 生活の底上げ）、「人口増」に繋げていく。</p>	【福祉対策】
2	子どもの減少	<p>若者の結婚意識を高める（結婚する若者を増やす）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者が気軽に出会える場所づくり</li> <li>将来の生活設計（人口減少も含め）考える場</li> </ul>	<p>若者をよく見かけますが、結婚はしていない。結婚に関心があるのだろうか。もっと気軽に出会える場所を作れないだろうか。</p>	【子育て対策】
3	子どもを産み育てしやすい環境づくり	<p>安心して出産ができる病院、子育てしやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産婦人科医の確保、医師を増やす（市民病院に産婦人科の先生が不在）</li> <li>元気な子どもを出産するための学習の場（妊娠するまでの健康や栄養についてなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産婦人科医がいない（市民病院）。安心して出産ができない。</li> <li>子育てを見守り、手助けができるおばちゃんづくりの場はないか。</li> </ul>	【子育て対策】
4	出産・子育てのしやすい環境づくり	<p>① 赤穂市民病院 産婦人科医の確保</p> <p>赤穂市民病院は平成29年より妊婦の受け入れを休止しており、市内で分娩できる医療施設は赤穂中央病院のみである。これから子どもを産み育てようとする女性の不安は大きい。女性が安心して妊娠・出産に臨むことができるよう、市の中核である当院での分娩受け入れ再開は大きな課題である。</p> <p>研修医に選ばれる病院づくりに努め、研修医を終えてからも働き続けたいと思ってもらえる工夫をする必要がある。</p>	<p>少子高齢化が加速する中、児童数が非常に少ない地区もあり、このような状況が続くと学校の統廃合、生産年齢人口の減少が起こる可能性もあるため、出産・子育てのしやすい環境づくりが必要である。</p>	【子育て対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	出産・子育てのしやすい環境づくり	<p>② 子育て支援</p> <p>出産後も子どもについての情報を親同士が交換でき、孤立せずに育児をすることは重要である。そのための取り組みとして、子育て中の母親が親子で参加できるイベントを企画する。</p> <p>例えば、関西福祉大学看護学部で開催している「ベビーピクス」のようなイベントを、市が中心となって大学・病院などと連携して行うことで、より子育て支援を継続しやすい環境を整えることができると思う。</p>		※ベビーピクスとは乳幼児と母親のスキンシップを基本に、ベビーマッサージとベビーエクササイズからなるプログラム。親子の絆を深め、信頼関係を育てることを目的とする。
5	子育てしやすいまち	<p>1 子育て支援施策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>待機児童ゼロを目指す</li> <li>幼稚園の3歳児保育の全市実施</li> <li>保育設備の充実</li> <li>保育料の軽減</li> <li>学校給食の無料化</li> </ul> <p>2 出会い・結婚の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>婚活事業の拡充</li> <li>出会いサポートセンターなどの設置</li> </ul> <p>3 市民病院の産科診療の早期実施</p> <p>4 学校園施設的环境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全幼少中にエアコンの設置</li> <li>備品の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未婚化、晩婚化が進行</li> <li>出生数の減少が加速</li> <li>子育ての孤立化</li> </ul> <p>などがみられ、人口減少の中で、子育て支援策の拡充が求められている。→ 限られたパイの奪い合いになるが、打ち出さざるを得ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>男女の出会いの場が少ない。結婚（見合い等）を斡旋、紹介する人、機関がない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>お産ができない市民病院では困る。→ 市民が安心して子どもが産める体制づくり、子育て推進のまちを</li> </ul>	【教育対策】(1、4) 【子育て対策】(2、3)
6	高齢者が安心して暮らせる環境づくり	高齢者が住み慣れた地域での支援や介護	団塊の世代が高齢期を迎えるため、老人福祉施設の増設及び介護不足の解消	【高齢者対策】
7	高齢者がいきいきと活躍できる社会 ～誰もが住み慣れた地域で生活できるまち～	<p>1 細やかな情報発信とマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種施策、事業等の適時適切な情報提供と情報等を活動につなげるマッチングができる体制整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進展する中で、健康で意欲ある高齢者も増えている。長年の知識、経験、技能等を地域社会に活かす。</li> </ul>	【高齢者対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	<p>高齢者がいきいきと活躍できる社会 ～誰もが住み慣れた地域で生活できるまち～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対する意識の改革 (高齢者 → 弱者)</li> <li>2 高齢者の能力を活かす施策の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動に参加しやすい環境整備</li> <li>・高齢者大学や老人クラブの活性化</li> <li>・介護職場等高齢者が働ける場所の開拓、紹介</li> </ul> </li> <li>3 居場所づくりの拡充               <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が気軽に集い、仲間と楽しく過ごせる「憩いのたまり場」を身近な場所に作る。いきいきサロンなどの拡充</li> </ul> </li> <li>4 健康寿命を延ばす施策の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・100歳体操、ラジオ体操などの普及、推進</li> <li>・気軽に日常的にスポーツを楽しめる環境づくり</li> </ul> </li> <li>5 認知症、一人暮らし老人が地域で安心して生活できるまちづくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の正しい知識の普及</li> <li>・地域で助け合い、支え合える活動、施策の推進</li> <li>・世代間交流の活性化</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少の中で社会の担い手不足 → 特に介護人材など</li> <li>・気軽に集える身近な場所が少ない。</li> <li>・健康寿命を延ばす施策の推進が必要</li> <li>・一人暮らし社会の本格化、認知症老人の増加</li> <li>・関西福祉大学との連携不足、大学の知恵、知識が生かされていない。</li> </ul>	
8	<p>地域包括支援センターにおける認知症予防事業の拡充</p>	<p>各地域におけるサロンを拡充（業務委託）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これによって、認知症の予防につなげる・・・介護保険の利用の減少</li> <li>・サロンの活用は重要なキーポイントとなる。 現在、社協などでサロンを開設しているが、地域包括支援センターで拡充することによって、要介護高齢者の増加抑制に繋がる。 助成を拡充することで、ボランティアでの運営・運営の負担を減らし、認知症カフェなどの充実を図る。</li> </ul>	<p>【高齢者対策】</p>

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
9	一子どもたちに川とふれあえる場を、大人にはウォーキングができる場をー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東有年の大波止（船着場跡）前をふれあいの場に</li> <li>・有年中横の河川敷での芝生広場、遊歩道、駐車場整備（常時、増水時の安全対策を含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自然体験できる場所の確保ができればすばらしい</li> <li>・東有年には子供たちが安全に遊べる公園がない</li> <li>・美しい眺めの遊歩道は、高齢者のウォーキングに役立つ</li> </ul>	【環境対策】
10	一美しい千種川をいつまでもー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西有年に計画されている産業廃棄物最終処分場計画に反対</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内最大級の処分場計画であるため、有害危険物質が搬入されない保証、自然災害に耐えうる施設である保証もない。汚染物質が拡散した場合、川も農地も汚染され、水道水としても活用できなくなる恐れがある。</li> </ul>	【環境対策】
11	可燃ごみ及び粗大ごみの生活系ごみ処分の有料化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少によりごみ排出量も減少傾向にあるが、再生利用率（資源化率）及び温室効果ガス削減が目標とはかなり乖離がある。</li> <li>そこで、可燃ごみを有料化することにより、資源化をより進め、温室効果ガスの排出量を抑える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂市の「ごみ焼却施設」が平成6年3月竣工以来既に24年が経過している。メンテナンスは実施しているが、より長命化を図るためにもごみ排出量を削減すべき。</li> <li>・レジ袋削減対策のため赤穂市も事業者とのレジ袋削減協定を締結し、市民はすでにスーパー等でごみ袋を購入している状況にある。</li> </ul>	【環境対策】 ※可燃ごみ等の指定袋制を導入している県下市町：27市町（内有料化：19市町） 「廃棄物対策の推進について」（H29.3 県農政環境部環境管理局環境整備課）より
12	さわやかな生活環境の保全	環境保全への取組	良好な環境を維持していくため産廃最終処分場建設計画に反対し、環境美化や環境保全に取り組む。	【環境対策】
13	3R（減らす、繰り返し使う、再資源化する）による粗大ごみの減量化	<p>不要になった家具や電化製品を低料金で引き取り、低料金で欲しい人に提供する仲介システムをPFI（民間の資金と技術を利用して公共サービスを提供する）の導入で行う案。</p> <p>業者は人を雇用して家具や電化製品を回収し、状態を確認したうえで希望者にリーズナブルな価格で販売、配送する。</p> <p>市は空いている市有地を安く業者に貸すことで多少でも収入が得られる。</p>	<p>特に人の移動が多い季節になると、まだ十分使える家具や電気製品が無造作に廃棄されている光景をよく目にする。</p> <p>大量生産、大量消費、大量廃棄の時代は過去のもの。愛着のあるモノが簡単に捨てられない人、モノを大切に長く使いたい人も大勢いると思う。</p>	【環境対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
14	ごみの減量化、分別化を進める	ごみ袋の有料化	一般家庭ごみに対する市民の意識・関心度をごみ袋の有料化により上げさせることにより、将来のごみ問題（焼却炉の老朽化対策やごみの埋め立て地対策）に対処する。 また、得られた財源でごみボックスの新設や高齢者のごみ出し支援者への補助金とする。	【環境対策】
15	豊かな自然環境、生活環境の保全	1 産業廃棄物処理場の進出防止 市民の英知を結集し、産業廃棄物処分場の市内への進出防止を図る。現在の素晴らしい、豊かな環境を将来にわたって保全する。  2 太陽光パネル設置規制 小規模の太陽光パネル等が規制できる条例の検討 届出、許可制	・「義士のまち赤穂」「自然に恵まれた住みやすいまち」から「産業廃棄物のまち」に変化しようとしている。将来の子孫のためにも、現在の自然環境を守っていく役割、使命、責務が今を生きる私たちに課せられている。  ・市内には太陽光パネルが山間部だけではなく、市街地の空き地等至る所に設置され、環境面だけではなく、隣接の住宅にも悪影響を与えており、災害面での不安もある。何らかの規制が必要である。	【環境対策】
16	災害に強いまちづくり	防災事業の推進	30年以内に70～80%の確率で発生すると言われている南海トラフ地震や予想外の自然災害での小中学校等避難所での備蓄物資の確保	【安全安心対策】
17	天候に左右されることなく緊急時に情報を的確に周知するシステムの開発	無指向性のスピーカーではなく単一指向性のものを使用し（例えば60度ずつ）、角度を変えて同じ内容を繰り返してアナウンスすることにより、緊急時や暴風雨の時でもピンポイントでより遠くかつ四方八方に伝えることができるのではないかと思う。	平時の屋間に実施されたJアラートのテスト時は聞き取れた。しかし、先日の緊急避難勧告は繰り返しアナウンスされたものの、音が風の音に負けて何を言っているのか全く聞き取れなかった。音の指向性に問題があるのではないか。 緊急事態や避難等の情報は死活問題に直結するために、いつでも正確かつ迅速に大勢の人に伝える必要がある。	【安全安心対策】
18	災害に強いまちづくり	1 市民の防災意識の啓発促進、防災情報の伝達方法の見直し ・防災関係情報の周知徹底 ・防災情報の周知伝達方法の検討	ハード面での整備はもちろん特にソフト面の充実を図ることが必要 ・災害情報、内容等が十分に市民に浸透していない	【安全安心対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	災害に強いまちづくり	<p>2 自主防災組織の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際機能できるような体制づくり</li> <li>・ 要支援者の安否確認、避難誘導が安全、円滑にできるような体制づくり</li> </ul> <p>3 避難所の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所に適応していない避難所の見直し</li> <li>・ 避難所用品の充実（簡易トイレ、畳、間仕切りなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織率は100%ということだが、名目だけで実際機能しているとはいえないのではないか。</li> <li>・ 避難所に適応していない避難所がある（保育所、幼稚園、隣保館、高雄小、高雄公民館など）</li> <li>・ 防災無線を整備しているが、大雨などの時、ほとんど聞こえない。あまり役に立っていないのではないか。</li> </ul>	
19	少人数学校・園を閉鎖し、近くの学校・園に統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1クラスに数名の児童しかいない学校・園を閉鎖</li> <li>・ 新たな学校・園に通学・園することになる児童のためにスクールバスを運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閉鎖する学校・園の維持費用をスクールバスの運行費用に充当</li> <li>・ 閉鎖する学校・園の職員は不登校等課題が多い学校・園に異動させることにより、丁寧な教育体制を構築</li> </ul>	【教育対策】
20	学問の町「赤穂」を創造する ～ 開設！こども大学、おとな大学 ～	<p>目的 子どもから大人までいつでも本格的な学問を学べる街「赤穂」の創造</p> <p>事業内容 ①小・中学生が大学教員から本格的な学問の基礎を楽しく学ぶ「こども大学」 ＜大学教員が看護，社会福祉，教育の専門分野の学問を子どもに分かるように教授する＞</p>	<p>市に大学があることの大切さの一つには、「学ぶ」ことを身近に感じることである。これからの時代「学び」は学校教育と社会教育が手を携えて未来を創造することにある。</p> <p>文部科学省と経済産業省が開催した「未来の教室」とEdTech研究会では、2030年頃には「日本全国でこんな学び方が当たり前になってほしい」と考えるイメージについて、問題意識と理想を束ねた「ラフ・スケッチ」を描くとともに、EdTechを用いた教育イノベーションの動向や、こうした学び方を実現するための解決すべき諸課題を並べた。</p>	<p>【教育対策】</p> <p>※EdTech とは テクノロジーを活用して教育に変革をもたらす技法を指す。例えば蓄積された個人学習データをAIが解析し個別最適化した学習プログラムの提供、動画やオンライン会話の形での講義の提供、プログラミング用ソフトウェアや3DプリンターやVR（仮想現実）等を用いたSTEM学習サービス、学習塾や学校等の校務や教</p>

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	<p>学問の町「赤穂」を創造する ～ 開設！こども大学、おとな大学 ～</p>	<p>内容（仮称）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数の不思議（数学コース）・科学の不思議（科学コース）・役に立つ人ってどんな人（福祉コース）・哲学してみよう（哲学コース）・食べるってなんだろう（食育コース）・芸術家になろう（芸術家コース）・体を動かすってなんだろう（健康体育コース）・こども店長になってみよう（経済コース）・電車の不思議（運輸コース）・育てて作ろう（赤穂段通コース）・サムライの暮らし探検隊（赤穂義士コース）</li> <li>・こどもから学びたいテーマを募集し、大学教員がアクティブに学ばせるコース</li> </ul> <p>②赤穂の大人が大学で本格的に学問を学ぶ「おとな大学」（リカレント教育）学部（看護，社会福祉，教育）の講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常に潜む数学探検家コース・生活に生きる科学コース・夢が膨らむ未来コース・文学サロンコース・料理と栄養コース・健康体操コース・趣味を学ぶコース（手芸，英語，園芸，ボランティア，パソコン，SNSなど）</li> </ul> <p>特別講演（市や大学における講演会）</p> <p>○各学部の学生に実施するような内容の授業と特別講演</p> <p>○市民から学びたいテーマを募集し，大学教員がわかりやすく教えるコース</p> <p>☆大学と市が受講学生証を出し，図書館の貸し出し優遇やコンサート等の割引など優待する。</p>	<p>子どもたちには、これからの社会を担う人材として、赤穂で大切に育み、様々なソリューションを提供する問題解決力を育成する必要がある。</p> <p>また、OECDの「国際成人力調査」（2012年）によると、30歳以上の成人の通学率は、参加24カ国中、日本は1.6%と最も低く（最高のフィンランドは8.27%）、リカレント教育が進んでいないことが明らかとなっている。なお、文部科学省が公開した「社会人の学び直しに関する現状等」（2015年4月）によれば、89%の社会人が、再教育を「受けたい」又は「興味がある」と回答しているが、「勤務時間が長くて十分な時間がない」、「費用が高すぎる」、「職場の理解を得られない」などの理由で、実際にはリカレント教育を受けられていないという現実がある。</p> <p>今後、急速な少子化高齢化により、労働力人口が減少し、同時に健康寿命が延びて100歳まで生きることが普通になるであろう。2017年9月より、「人生100年時代構想会議」が開催されており、すべての人に開かれた教育機会を確保し、何歳になっても学び直しができるリカレント教育について議論されている。</p> <p>今後、政府は、経済的な事情などで進学できなかった人、出産・育児で退職した女性、また定年退職した高齢者などが、「いつでも学び直し・やり直しができる社会」を目指している。文部科学省は、2018年度予算において、リカレント教育や職業教育の充実に取り組む大学等への支援額を増額するなど、具体的な対応を進めている。</p>	<p>材作成の支援サービス、学習者と必要な指導者や教材などのマッチングサービスなど。</p> <p>※STEM とは 科学と数学を土台として展開する科学技術人材育成を行おうというアメリカの戦略のひとつ。社会に出る前の子どもたちが、将来そつした舞台上でリーダーとして活躍することを目的とした教育（プログラミング教育など）。</p> <p>※リカレント教育 とは 社会人になってからも、学校などの教育機関に戻り、学習し、また社会へ出ていくということを生涯続けることができる教育システムを指す。</p>

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
21	地元企業の工場見学	子どもたちに赤穂市内の企業を見学してもらい、その良さや地元企業への愛着をもってもらう（将来は市内で働きたいというところまで繋げたい）	<p>中学校のトライやるウィークは、実際に働くことで、労働の尊さ、大変さを体験していただくものであるが、地域性や安全性の点から、限られた職場での体験となっていると思われる。市内の地元企業を広く見学してもらうことで、より良く知ってもらうとともに、地元で働くという思いを育てる。</p> <p>赤穂にも多くの地元企業があり、特色のある事業を展開しているし、大手企業の工場もある。</p>	【教育対策】
22	不登校児童の増加についての施策の拡充	<p>不登校児童を減らすスキルのアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生の事務的な負担を減らしつつ、本来の業務（子どもとの関り）を重視した運営</li> <li>不登校児の支援の在り方を学校単位で勉強会など行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤穂市における不登校の児童は、市の割合からみるとかなり多いのではないかと。</li> <li>先生方の支援の必要な子どもに対する支援の在り方に格差がある。</li> </ul>	【教育対策】
23	プラット赤穂に幼保園を整備し、教諭・保育士として採用されることを条件に、幼稚園教諭及び保育士の免許資格を所有する人に登録空き家へ優先的に入居	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性労働力の活用</li> <li>登録空き家の活用</li> <li>待機児童の解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>播州赤穂駅前の市内一等地にも関わらず、プラット赤穂が有効に活用されているとは言い難いため、幼保園を整備し、関連消費商品店舗を誘致</li> <li>また、職場が確保されているために、登録空き家へ市外からも移住しやすい</li> </ul>	【教育対策】
24	スポーツ先進都市にふさわしい、生涯スポーツ社会実現を目指したまちづくり	<p>(1) 超高齢社会を迎え、健康とスポーツを融合した生涯スポーツ文化をまちづくりの一つとして創造し、推進する。</p> <p>【実施方法】</p> <p>ア 3つの視点からの取り組み</p> <p>①「する」多様な参加の仕方とその環境づくり</p> <p>②「みる（応援する）」情報発信と機会の提供（ICTの活用）</p> <p>③「ささえる」情報センターの設置、ボランティア、指導者、研究機関、医療関係者、法人</p> <p>イ 推進組織の育成と推進拠点づくり</p>	<p>高齢化に伴い、心身の健康とスポーツへの関心が高まるなか、全ての市民がいつでも、どこでも、いつまでも健康づくりとスポーツに親しめる機会と場を提供することが求められている。</p>	【文化・スポーツ対策】



赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	<p>スポーツ先進都市にふさわしい、生涯スポーツ社会実現を目指したまちづくり</p>	<p>(2) 少子化の進むなか、児童生徒をたくましく育成するため、小・中・高・大が連携した学校体育・スポーツのシステム構築及び地域スポーツ発展へと続くスポーツ文化を創造する。そのため、スポーツを愛する市民の幅広い支援と協力を醸成し、スポーツ先進都市「おらが赤穂」を具現化する。</p> <p>【実施方法】                      ア 学校教育・スポーツの支援と開かれた学校                      イ 小学校・中学校・高等学校・大学のスポーツの連続性と連携、一貫指導および振興                      ウ 「おらが赤穂一ふるさとスポーツ振興基金」                      エ 体育協会を中核とした推進組織の設立</p>	<p>近年の児童生徒は、スマートフォン等の影響でスポーツに対する関心や親しむ機会が減少している。また、少子化に伴う学校規模の縮小で、クラブ活動等の部員が不足している。たくましい児童生徒を育てる部活動などのスポーツ活動充実の意義は大きい。そのためには、市民や小中高大の連携による指導体制の連続性が重要である。しかし、このようなシステムが構築できておらず、早急に取り組む必要がある。</p>	
		<p>(3) スポーツ王国「赤穂」を目指して、スポーツ振興施策の充実を図るとともに、ICTを活用した情報発信により誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する。</p> <p>【実施方法】                      ア 赤穂市ホームページの活用                      イ 情報センターによる情報発信</p>	<p>市民の多くがICTによる情報を得ているといった情勢を踏まえ、スポーツ振興施策やイベント、各スポーツ施設などの情報をICTを活用して発信することは急務である。</p>	
		<p>(4) 赤穂市体育協会を中核とした小中学校スポーツの専門指導体制の構築、各種目競技団体の強化育成、市民全体のスポーツ参画・育成計画を策定・推進し、予算措置を図る。</p> <p>【実施方法】                      ア 小中学校にスポーツ指導教員を配置                      イ スポーツ推進員制度の充実と積極的な強化指導体制の構築                      ウ 優秀スポーツ選手顕彰制度の充実</p>	<p>充実した指導体制により、各種競技会において市民が好結果を収めることで、市民全体の一体感、共有感が生まれる。また、小中学生にとっては、学校生活における充実感、達成感を得る機会となり、教育、情操に最大の効果が期待できる。</p>	

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	スポーツ先進都市にふさわしい、生涯スポーツ社会実現を目指したまちづくり	<p>(5) 幼児から高齢者にいたるまで幅広い階層が安心して利用できるよう、施設の環境整備を徹底する。</p> <p>【実施方法】</p> <p>ア スポーツクラブ21の充実</p> <p>イ 幼児から高齢者までが参加しやすい環境づくり</p> <p>①施設設備の充実 ～夏季の熱中症対策として学校体育館や地区体育館などへの冷房設備</p> <p>②誰でもが参加できるニュースポーツの拡充</p>	各地区のスポーツ団体は高齢者が主体となってきている。高齢者が安心安全に活動できるよう施設設備の安全管理及び運営が重要である。	
25	文化芸術活動を振興し、心が通い合い、誇りが持てるまちづくりを	<p>1 赤穂市文化芸術振興計画の策定と実施</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政と市民による文化芸術振興計画の策定と実施</li> </ul>	<p>少子高齢化が進み、経済的発展が減速する赤穂市において、文化芸術の振興は、人々に感動や生きがいを与え、心の豊かさにつながっていくものである。また、住民それぞれの自己の充実、啓発や生活の向上に資するにとどまらず、地域社会への参加と連帯感を育てるものとしてその役割は極めて大きい。</p> <p>近年、コミュニケーションが情報機器を通じたものとなり、人と人とのつながりが希薄化し、また郡部では少子高齢化により活気が失われている。「賑わいはないが、私たちの地域では人と人がつながり、心豊かな生活が送れている」と実感するためには各地域における市民文化芸術活動を中心としたコミュニケーションが欠かせない。</p> <p>また、今後、AIやIoTの発達により生活自体の不安は解消されていくが、人は心の潤いを求め、心豊かな生活を求めていく。その要となるものが文化芸術活動である。</p> <p>さらに、「赤穂市は文化芸術活動も活発で、楽しい街だ」「〇〇（文化芸術の一分野）が全国レベルだ」等誇りを持てる魅力あるまちづくりを進めていく上で、文化芸術の振興は大きな意味を持つ。</p> <p>以上のことから、文化的視点に立ったまちづくりを進めるために、文化芸術振興計画を策定し、人と人が文化芸術活動を通してつながり、赤穂市を誇りに思う文化水準の高いまちにしていくことが重要である。</p>	【文化・スポーツ対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	文化芸術活動を振興し、心が通い合い、誇りが持てるまちづくりを	<p>2 市民の文化芸術活動の促進 【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂市文化協会加盟団体の増加</li> <li>・文化芸術活動団体への支援</li> </ul>	<p>2 市民一人一人が積極的に文化芸術活動を行うことは、心の豊かさを育み、生活を豊かなものにするとともに、市全体の文化水準を高め、市の魅力向上にもつながる。文化芸術活動団体が活動しやすいよう支援を行うことが求められる。</p>	
		<p>3 文化芸術活動の発表機会の拡充 【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作の場や展示の場の充実、作品展や発表会などのイベント開催</li> <li>・文化芸術セミナー、ワークショップやコンサートの開催</li> <li>・サマーフェスティバル、青少年音楽祭等新たなイベント企画</li> </ul>	<p>現在、文化協会所属団体（22団体）及び他の多くの団体が活発に発表等の活動を行うことにより、交流が増え、市民の文化芸術活動への参加も促される。</p>	
		<p>4 青少年の文化芸術活動への支援 【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスサークルやブラスバンドクラブの創設</li> <li>・青少年対象の絵画クラブや写真クラブの創設</li> <li>・学校教育との連携による伝統文化や伝統芸能教室の開催</li> </ul>	<p>青少年がいきいきとスポーツや文化芸術活動に取り組んでいるまちには活気があふれている。市の、そして文化芸術活動の活性化には青少年の瑞々しい感性、エネルギーが必要である。</p> <p>そのため、学校にアーティストが出向いての実演・指導活動、子どもたちの伝統文化体験の機会、青少年の文化芸術活動に参加しやすい環境づくりへの支援は、情操豊かな青少年の育成を図るとともに芸術文化の新たな担い手を育てることとなり、活動の活性化とともに市民文化の向上につながる。</p>	
		<p>5 文化を育む施設・設備の整備 【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模文化ホールの建設</li> <li>・市民会館大会議室のリニューアル</li> </ul>	<p>文化芸術活動の拠点として文化会館があるが、使用料等の関係で利用しにくい。市民が気軽に利用でき、設備や環境の整備された施設が必要である。市民会館は市の中心部に位置し、大会議室も利用もしやすいが、文化芸術活動の発表の場としては中途半端であり、老朽化により快適性においても不十分である。</p> <p>新たなホールの建設が最善だが、既存施設の充実として市民会館の大会議室をリニューアルするなど、文化の薫り高い赤穂市にふさわしい施設が必要である。</p>	

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	文化芸術活動を振興し、心が通い合い、誇りが持てるまちづくりを	<p>6 著名なアーティスト、若手アーティストの活動拠点をつくり出す</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂市文化芸術振興責任者へ著名なアーティストを招聘</li> <li>・若手アーティストの活動拠点の貸与や、支援</li> </ul>	<p>豊岡市では劇作家の平田オリザ氏を芸術文化参与として招聘し、劇団の拠点を豊岡に移している。これにより舞台芸術を志す若者が豊岡へ移住している。このことは市民の誇りともなり、文化芸術活動の活性化に寄与している。</p> <p>赤穂市においても、著名なアーティストの招聘、その活動拠点の設置することで、市のステータスが向上し、市民も誇りが持てるものとなる。さらに全国的に注目されることは市の活性化につながる。</p>	
		<p>7 文化芸術活動活性化のための情報の発信</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂市ホームページや情報紙を活用した文化協会をはじめとする文化団体・サークルの活動やイベントの紹介</li> <li>・自主的に文化芸術活動に取り組もうとする要望等を把握し、助言・支援</li> </ul>	<p>文化芸術活動活性化のためには、多くの人に活動状況等を理解してもらう機会の提供が重要である。文化協会を中心とする各種団体のイベント情報を積極的に発信するとともに、新たな要望を受信し、改善していく取組が必要である。</p>	
		<p>8 文化芸術活動推進の指標を具体化する</p> <p>【具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤穂市総合計画進捗状況指標の見直し</li> <li>*文化サークルの数</li> <li>*市民の文化芸術活動への参加者数</li> <li>*文化芸術活動の発表の回数等</li> </ul>	<p>現総合計画の進捗状況では「文化芸術活動を推進する」の数値目標が「市民一人あたりの文化会館利用回数」のみである。市民がどれだけ主体的に、積極的に文化芸術活動に参加しているのか、どれくらい文化サークルがあるのか、どれくらい市民への発表の場を持っているのか等が市民文化水準の指標であると考え。指標をさらに具体的なものにする必要がある。</p>	
26	塩業、民俗資料館の整備	<p>現在の民俗資料館の建物は、「旧日本専売公社赤穂支局」。古くは「旧大蔵省赤穂塩務局」として建設され、明治期の西洋建築として珍しい建物であり、有名な赤穂塩を象徴するにふさわしい建物である。</p> <p>しかし現状は、塩業関係の常設展示物もなく、今春、日本海水俵赤穂工場から市に提供された塩業関係資料も、有年考古館に展示・保存されている。これを民俗資料館に移し、恒温湿装置を整備し、塩業資料館として展示公開していく。</p>	<p>赤穂の塩関係展示に、有年考古館は地理的にも関係が薄く、現民俗資料館の素晴らしい建物そのものが塩業資料館にふさわしく、かつ周辺の建物や、直ぐ近くに日本でも有数の工場生産を誇る日本海水俵赤穂工場もあり、観光客や見学者のためにも極めて効果的な塩業資料館となり得る。</p>	【文化・スポーツ対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
27	山鹿素行研究会の公的 事業化	<p>平成21年に、全国フォーラムを以て発足した山鹿素行研究会は、10年を迎えるに至る。赤穂市の公的事业として認可いただきたい。</p> <p>発足当時、発起人の木山先生（元教育長）が、義士会会則に有る研究機関としての認可を市長にお願いし、「赤穂山鹿素行研究会」が発足した。</p> <p>以来、私的活動を以て10年経過した。私的活動は、普及・発展に支障が多く有り、市の公的事业化をお願いしたい。</p>	<p>1 素行と縁故の最も深い土地は赤穂市。素行学活用は赤穂の使命。</p> <p>2 素行は、現在教諭論を語る上で「日本人のアイデンティティは何か」という根源的な問いに関して避けて通れない思想家であり、日本の文化や思想が国際的に注目される昨今、日本人として知っておきたい人物」と、評価されている。</p> <p>3 最近、「大石良雄は日本一のリーダー」との評価が有るが、大石良雄は思想家ではない。大石のリーダー育成は素行学活用。</p> <p>4 戦後、GHQの日本人自虐化策は、忠臣蔵禁止で始まった。日本の「道徳復活」は、赤穂市の公約事業による「素行学活用」で行うべき。</p>	【文化・スポーツ対策】
28	山鹿素行記念館建設	<p>1 赤穂は、大正13年に「素行会赤穂支部」が発足し、会則に「素行文庫」設置を規定して、花岳寺を事務局にして存在した。この関係で花岳寺には「銅像碑文」直筆等が存在する。この様に、市内には多くの史資料が活用されずに存在する。</p> <p>2 全国には「記念館」が多く存在する。その一例が関谷学校で、市内の学生が毎年訪問している。</p> <p>「山鹿素行記念館」があれば、山鹿素行資料等が収集され、その活用を目的に、学生・社会人が集まり、市外からの集客にも機能する。</p> <p>これらの目的として、赤穂城二の丸に「素行記念館」建設を提案する。</p>	<p>1 素行銅像は、明治天皇が素行先生に追贈正四位をされたことを祝う目的もあってたてられ、それに感銘を受けた山県治郎県知事が、旧制赤穂中学校建設を決意したという歴史が関係している。その様な歴史の銅像を「謫居跡に素行記念館を建設するため」として移動したい。このままでは、赤穂は歴史を無視するという評価が残る。</p> <p>2 赤穂城二の丸は、素行の生涯の中でも最も評価されている「中朝事実」や大石良雄の育成に関係した「謫居童問」にかかる良い環境である。</p> <p>この場所に、素行全集15巻外の資料を収集し、定期的に解説するのが記念館の目的。</p> <p>3 市内外には、義士関係、素行関係の資料が多く存在する。たつの市に若狭野浅野家の遺品が保管されているが、本来赤穂で活用を図るべき。尾崎八幡神社等には大石家仮寓居の関係で多くの資料が活用を待っている。</p>	【文化・スポーツ対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	山鹿素行記念館建設		<p>4 「謫居童問」は和歌調で、学問編188巻と治平編108巻を作成中。完成後、仮巻又は短冊に清書し、閲覧・解説を計画している。</p> <p>これら歴史文化遺産の収集活用のためには、素行学誕生の聖地の赤穂城二の丸に「素行記念館」が必要。</p>	
29	「活気いっぱい 赤穂！！ 観光・歴史の街 赤穂でトライアスロンに挑戦しよう！！」	<p>赤穂市の住民参加の取り組みとして「トライアスロン」を実施する。</p> <p>海—スイム（水泳） 道路—自転車、マラソン</p> <p>公式には距離は設定してあるが、赤穂独自のルールでの実施も可</p>	<p>1 市民がトライアスロンに参加することは勿論、全市民挙げての取り組みが可能である。</p> <p>※スポーツは「プレイヤー」とともに「サポーター」が必要である。</p> <p>2. 観光・歴史の街として、他府県の参加者へのPRになり、さまざまな視点で活性化が生まれる。</p> <p>※経済効果が見込まれる等</p> <p>3. 参加者への「おもてなし」が生まれ、自治会、団体の組織の強化になる。</p> <p>4. 回を重ねるとアイデアが生まれ、広がりのある取り組みとなる。</p> <p>5. 一部の年齢の参加にとどまらず、老若男女市民フル参加にできる。</p> <p>6. 観光としてのリタピーターも見込まれる。</p> <p>7. 住みよいまちとしての宣伝にもなり、定住への情報提供になる。</p> <p>8. 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学の連携も考えられ、「ボランティア」の大切さや、幼い時からの「住民意識」が育ち、「地元愛」も醸成される。</p> <p>9. 赤穂浪士の祭りとともに、年に2回の最大行事として位置づくことで、高齢層の「いきがい」にも繋がる。</p> <p>10. スポーツには医療の関わりが必ず必要である。病院の方々の大きなバックアップが大きなサポートとなる。</p>	【文化・スポーツ対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
30	ものづくり生産技術向上企業（第四次産業革命対応）の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・播磨科学公園都市の科学技術の活用を推進</li> <li>・立地企業の集積都市として、法人市民税や固定資産税など多大な税収確保に対する補助制度の確立</li> <li>・産業振興功労表彰制度の確立</li> <li>・中小企業の高度な技術革新についての補助制度の確立</li> <li>・高度人材採用に対する採用経費への補助制度の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の地域に比べ立地企業が多く地元地域には税収確保や雇用拡大も含めてメリットが大きい。</li> <li>・UJターンの可能性も多大であり、生産性がある人の定住促進につながる。</li> </ul>	<p>【産業対策】</p> <p>※第4次産業革命とは蒸気機関を第1次、電気機関を第2次、製造業の自動化を第3次の産業革命とみなし、インターネットを通じてあらゆる機器が結びつく段階を第4次の産業革命と位置つけたもの。IoTや人口知能の導入により新たに産業の高度化を目指す。</p>
31	優れた労働の担い手づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元雇用の促進</li> <li>・若者の技術教育の推進（実業高校の拡大、定員の拡大）</li> <li>・外国人労働者、研修生への拠点づくりのため、空き家対策の一環として企業合同宿舍への転換</li> <li>・職業訓練校の分校の設置</li> <li>・充実したキャリア教育、職業教育が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元雇用で人口流出を防ぎ定着率の向上につながる</li> <li>・政府の外国人労働者に対する規制緩和で労働者不足など企業の課題解決策につながる。</li> </ul>	<p>【産業対策】</p>
32	若者が集うまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業、漁業、建築関係等の若い世代の働き手が少なくなっている業種について仕事の魅力を発信していく。</li> <li>・若い世代が起業しやすくなる様なサポート、セミナーを行う。</li> </ul>	<p>若い世代の人口が減少していくとともに、まちも衰退していくと考えた。</p>	<p>【産業対策】</p>
33	一有年チャリで行く有年遺跡めぐり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有年地区の遺跡を巡るためのマップ作成（コンビニや食事場所も記載）</li> <li>・有年駅にGPS付のレンタサイクル配備</li> </ul>	<p>全国でも有数の遺跡、また遺跡公園には四季折々の花が咲くところでもあるため、様々な地域の人に訪れてもらいたい。</p>	<p>【観光振興対策】</p>

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
34	赤穂市および周辺における景観の魅力発見と創出	市民は赤穂の良さに気付き難いために第三者の力を借りてはどうか。四季を通じて、先入観の無い県外や海外からの旅行者の眼に魅力的に映った景観や気に入った場所を撮影した画像を投稿してもらってフォトコンテストを開催する案。 人気の高い場所を重点的にブラッシュアップしてはどうか。	海外旅行先では観光名所以外に絵になる場所が多いと思う。赤穂市の場合、赤穂城等の名所旧跡、赤穂御崎や坂越の街並み等の景勝地もあるが、駅前の目抜き通りすら印象が薄く、散歩を楽しむ人をあまり見かけない。海も川も山もあり、温暖で風光明媚な住みやすい地であるにも関わらず、意外に絵になる景観が少ないのではないかとと思う。 福山市は城以外に“バラのまち”で有名。至る所にバラが植えてあり、毎年5月にはバラ祭りが開催され賑わっている。普段はあまりさえない場所でもバラが咲くと景色が一変し、観光客や散歩する人々で街に活気が生まれている。 赤穂市の場合、市内全域で花いっぱい運動を展開するのはどうか。和風な花（牡丹、芍薬、菖蒲など）が似合うと思う。	【観光振興対策】
35	観光ワンストップサービス	赤穂の魅力がすべてわかる「道の駅」的な施設を設ける。 特産の塩、カキなどの食材を使った料理が団体客でも楽しめる、忠臣蔵の情報発信（ここを起点に市内の観光名所への誘導（スタンプラリー））、赤穂温泉を使った足湯など赤穂の魅力を満喫でき、赤穂に長時間滞在いただけるよう工夫した施設。 元禄時代へタイムスリップするバーチャル観光などもどうか。	赤穂市は観光に力を入れているが、観光場所や食事のできる場所が点在しており、キーとなる拠点が必要ではないかと考える。まずはそこへ行けば赤穂の魅力がすべてわかるという拠点があれば、それを起点に市内の観光名所への誘導もできるのではないかと。 また、忠臣蔵関連の常設展示、外国人観光客向けに、映画やドラマの忠臣蔵の名場面の吹き替え版などを常設なども考えられる。 さらに雇用の拡大にもつながる。	【観光振興対策】
36	NHK「プラタモリ」の誘致	・赤穂コールドロンの紹介をベースとしたプラタモリの誘致 ・歴史と自然で赤穂をPRする。	最近、赤穂コールドロンが発見されたが、まだまだ知名度が低い。番組で紹介してもらうことで全国にPRする。 また、このような地形は地震に強いこともPRし、赤穂市の安全性を訴える。 赤穂上水など取り上げて欲しい内容は他にもある。	【観光振興対策】
37	人口の減少と高齢化	子どもを見守り育てる先輩の役割作り（近所など） 高齢者の外出について	・家族作り、安心して子育てが出来るまちづくり、近所のつきあいを考える。 ・高齢化により、運転免許の返納が多くなり、その後の外出手段を考えなければならない。	【コミュニティ推進対策】



赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
38	市営の集合住宅を見直し、高齢世代と若い世代間の交流を図る	市営住宅の低層階を障がいのある人や高齢者専用にして、エレベーターが無い上の階を学生や若いファミリー層に格安の家賃で貸してはどうか。 その代り、彼らにごみ出しや共有部分の清掃を定期的にやってもらったり、高齢者にとっては厄介な電球の交換やちょっとした買い物などの雑用を低料金で頼めるといいのではないかと思う。	幼児や子供が入居すると活気が生まれる。世代間のコミュニケーションも増える結果、孤立死や孤独死を回避することができるように思う。	【コミュニティ推進対策】
39	地域が子どもたちを育て、また自分たちを育てる	各地域に居る、伝統芸能や多彩な趣味を活かした知識を持っている人々を、各地区で一元的にまとめ、自治会・老人会といった組織がコーディネートし、学校での講師として派遣する。	現在は、学校の授業の一環として、地域に住む多彩な人材を、学校の教師が個別に探してきて講師として依頼している。 地域が、受け身でなく積極的に子どもたちとのかかわりを持つことが重要。	【コミュニティ推進対策】
40	地区公民館を地域の拠点づくりの場へ	①防災の拠点 ②ボランティアの拠点 ③高齢者から子どもたちや障がい者までが集う拠点	地域の情報が集まる場所、いろんな人が集まる場所であるにもかかわらず活かされていない。 ①災害時の情報が身近に得られる場所・拠点であるにも関わらず、避難場所・待機場所としてのみの活用となっている。情報を発信でき、迅速に対応できる災害時の拠点とできないか。 ②地域が、公民館を有効に活用して地域のボランティアの一元管理を行うことにより、機動力のあるボランティア活動ができるのではないか。 ③公民館を、バラバラに活動している生涯学習の場から、幼児・小学生・障がい者・高齢者が一同に集う場として活用できないか。受け身の高齢者でなく、自立できる高齢者として活かされる拠点として公民館を活用できないか。 ④地域の伝統芸能を、公民館で管理し、保存できないか。 公民館の活用については、地域を挙げてもっと検討する必要がある。「地域の拠点」「地域の施設」と考えるならば、館長を民間人材や地域住民とすることで、より活かされた公民館とすることができるのではないかと考える。その場合、そのような館長を地域が育てていくことも大切である。	【コミュニティ推進対策】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	地区公民館を地域の拠点づくりの場へ		将来、市においても人口減少により、財源確保も困難になることは眼に見えている。そうすると、本当に必要なものに対してのみ財源が充てられる。地域が能動的に活用することで本当に必要な施設となり得る。	
41	交通の利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR赤穂線の増発、朝（上り）夜（下り）の増便（30分に1本の便とする）</li> <li>・新幹線との乗継利便性の向上</li> <li>・高取峠のトンネル化</li> </ul>	<p>赤穂市の交通の便が悪いため、市外に住居を構える若手社員が増えている。</p> <p>これらを解消するために、JRの利便性を向上させる。</p> <p>また、高取トンネルはカーブも多く、毎年事故が発生している。トンネル化で危険性を回避し、利便性を向上させる。</p>	【交流基盤対策】
42	オープンシティ	<p>高校や大学での「オープンスクール」と同様に「オープンシティ」を開催し、赤穂市の特色を市外の方に知ってもらい、移住や定住に結び付ける。</p> <p>カテゴリーは「安全・安心」「子育て支援」「豊かな自然」「歴史と文化」「生活」「マイホームの実現」「コンパクトシティ」等。誇れるものはたくさんあるのでは。</p> <p>義士祭等大きなイベントに合わせての開催が良いが、難しい場合はHPを活用し、いつでも誰でも訪れることができ、簡単に理解できるものとすればどうか。</p>	市は、各分野で様々な施策に取り組んでいるが、宣伝不足からか、「そのような制度があつたらやましい、知らなかった」という言葉も方々から聞いている。もっと市の制度や良いところを知ってもらうための取組を強化する。	【移住・定住対策】
43	市の印刷物をもっと読みやすく、わかりやすくする	<p>ユニバーサルデザインの観点から市の印刷物を見直し、読みやすく、見やすくする。細部まで読まなくても一目で見ればわかるのがベスト。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 難しい語句を避け、文字を大きくしてわかりやすい表現にする。</li> <li>2. 見やすさ、読みやすさを重視した色のインクで印刷する。</li> <li>3. 要点を簡潔かつ箇条書きにする。</li> <li>4. 出来るだけ写真やイラスト、グラフ、図解等で捕捉する。</li> </ol>	<p>老若男女、不特定多数の人が読むものなので、市の印刷物をすべて読みやすくして分かりやすくすることは重要。</p> <p>熊本市で第2回ユニバーサルデザインの全国大会が開催された時、市長主導で印刷物にもUDの配慮がなされていたことに驚いた。</p> <p>益々増える高齢者にとっては文字が小さすぎて読めなかったり、読むことはできても理解できなかったりする市の印刷物に目を通すことは容易ではない。</p> <p>デジタルデバイドの問題を極力無くすために、印刷物で税金や災害時の注意事項等の重要な情報を確実に届けることが求められていると思う。</p>	<p>【情報共有化対策】</p> <p>※デジタルデバイドとは</p> <p>コンピューターやインターネットを利用したり使いこなしている人と、そうでない人との間に生じる、貧富や機会、社会的地位などの格差。</p>

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
44	<p>“対話”と“公共心”が笑顔と活力を生み出す！ 一地方自治最先端のまち赤穂一</p>	<p>具体的な提示の内容</p> <p>(1) 行政 ①行政計画への参画 行政計画の中に設けられている住民参加の機会を、時間と労力をかけ、より実質的なものとする。 ②市民対話課のさらなる充実 市の市民対話課が中心となり、市民がちょっと真面目なテーマを日常的に話し合える場をいくつか設置する。あるいは、そうした場・機会を設け活動するNPOを募集する。</p> <p>(2) 議会 ①さらなる学習と対話 地方自治、公共性、対話などについて、大学の教員を交え学習し、提案書にある内容をリードする。 ②政策サポーター制度の検討 長野県の飯綱町議会が提案し実施している「政策サポーター制度」の学習、導入について検討する。</p> <p>(3) 地域住民 教学サロン（月に1回、市民の人たちが対話をする場：司会は関西福祉大学教員の中村）のような、対話の場・機会を自発的に創ったり、参加したりする。</p>	<p>1. 理由 地域創りの原点は政治（一人ひとりの幸せ・善き暮らしができる秩序を創っていくこと）である。にもかかわらず、これを焦点とした議論は少ない。これからの「まち創り」は、原点回帰が重要であると考えた。</p> <p>2. 提案を展開する上でのアイディア 対話：言葉が人間性の原点である。「対話」をととても大切にしているまちとして、全国に発信できるようにする。権力ではなく、人の心がこもった言葉と、「理」に合った対話がまちを創る。 公共性：行政、議会、地域での暮らしなど、様々な場面において設けた「対話の場」を通して、市民の公共心を育み、地域における公共性を高めることは、「産業・生産」、「人口増加」とは違った形で、地域生活の「質」を高めるキーワードであると考えている。</p>	【その他】
45	<p>人口減少社会に対応した施策の構築 ～人口が減っても活力が維持できる赤穂～</p>	<p>1 総合戦略の見直し、改定 ・総合計画とリンクした総合戦略の改定</p> <p>2 縮小のまちづくりの推進 ～コンパクト化とネットワーク化の推進～ ・人口減少化で都市や生活拠点のコンパクト化を進め、質の高いサービスを効率的に提供するとともに、中心部と周辺部を結ぶ交通網等のネットワーク化を推進</p>	<p>・人口減少は止められない → スピードを少しでも抑える → 合計特殊出生率の向上</p> <p>・人口減少を見据えた施策の推進 水道、下水道、公共施設等の人口減に適應した見直しが必要 例えば、2割の人口減少となれば、11人サッカーを9人で行うのと同じ → 9人制サッカーの戦略が必要</p>	【その他】

赤穂未来創造委員会委員 提案概要一覧

番号	提案のタイトル	提案の内容	提案の理由	備考
	人口減少社会に対応した施策の構築 ～人口が減っても活力が維持できる赤穂～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリアマネジメントの検討</li> <li>・議員定数の削減等</li> </ul> <p>3定住人口の維持、増加策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住みやすいまち、子育てしやすいまちを目指す。</li> <li>・就職先は市外、住まいは市内で。</li> <li>・通勤範囲の拡大 → 交通網、交通手段の充実（新快速の充実）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20歳代の転出者が多い → 転出者の減少 → 市内での就業機会の拡充 → しかし就業先の確保は困難 → 定住人口の維持、増加</li> <li>・高齢化の進展の中で、空き家が急増しており対策が必要</li> <li>・一人暮らし社会が本格化</li> </ul>	
46	総合計画策定委員の選任について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・33年～42年を担う若い市民（産業人や大学生等）を選任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その時代に自分たちが輝いて活躍するための新しい発想力が必要</li> </ul>	【その他】
47	総合計画等推進体制の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画並びに各施策を着実に実施していくための全庁、各部、各課、関係機関等との推進体制（連携の在り方）を明確にする。</li> <li>・毎年度の進捗状況について、各課長が担当部長に各部部長が市長に報告し、市長が市民に報告するといったシステムの構築</li> </ul>	責任の明確化による着実な計画の推進	【その他】
48	中高年の男性の自立を促す家事の基礎講座による技能習得	<p>家事を一手に引き受けていた女性が長期入院や認知症により家事ができなくなった時、残された男性が困ることになる。</p> <p>そこで、男性にも最低限の家事を習得してもらうことで生活の質（QOL）の向上を図ってはいかがか。講座の開催は社協でお願いできれば。</p>	<p>女性に過度に依存していると、老老介護や単身赴任になった時、家事が一切できない男性は途方に暮れると思う。</p> <p>そこで、女性のためだけでなく自分が自立するためにも、電子レンジを使った簡単な料理、衣類よって違う洗剤と洗濯機の使い方や干し方、室内の片づけ等、家事の基本を習得することは必要だと思う。</p>	【その他】